



”春立ちて 神出でますを知らずごと  
香り温みぬ庭の紅梅” 岡田 光玉  
早いもので、暦の上では春になりました。人にとっ  
てもクモにとっても、厳しくて暗い、長い冬が去り、  
陽射の暖かな、すべてを育む春が来ています。  
さあ、私たちもこたつから出て新しい自然を探して  
みましょう。

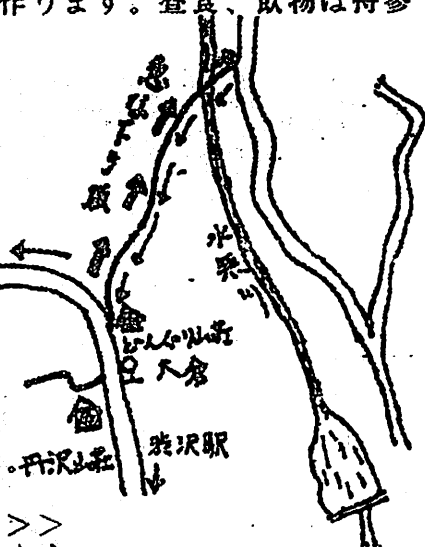
『お知らせ』

<<採集会について>>

日にち……2月21日(日)  
場所……神奈川県 丹沢・大倉  
集合……小田急線 渋沢駅、AM10:00  
会費……100円:豚汁を作ります。昼食、飲物は持参

<採集のコース>

- 午前中は→のコース  
で採集します。
- 午後は→のコースで  
帰ります。
- 上記の通り渋沢10:00  
集合ですが、大倉までのバ  
スが少ないのでご注意下  
さい。
- 遅れた方は、バスの本数が  
多い「秦野駅」行きのバス  
で「大倉入口」下車、徒歩  
30分で大倉へ来て下さい。



<<談話会の口座の変更について>>

- 口座が次のように変更されます。  
<東京 7-74885>
- これまでの<横浜 0-1460>は、廃止します。
- 会費には変更は有りません(2800円)。

<<運営委員会について>>

- 2月21日、採集会の時に行ないます。

10月18日の採集・観察会報告

笹岡 文雄

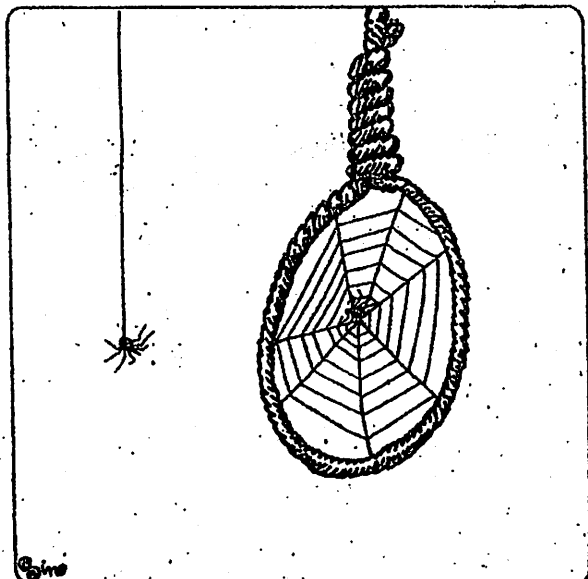
参加者：池田博明、板倉泰弘、稲葉茂代、小野展嗣、熊田憲一、笹岡文雄、新海 明、  
新海栄一、高橋 登、谷川明男 以上10名 (77才順)

採集当日集計分

ジグモ、ウスグモ、オウギグモ、マネキグモ、ミヤグモ、ユウレイグモ、オオヒメグモ、  
ツリガメグモ、ネヒメグモ、カグヤヒメグモ、ヒメグモ、カレハヒメグモ、アシブトヒメグモ、  
シモフリミジンクモ、ホシミドリヒメグモ、コガネヒメグモ、ムラクモヒシガタグモ、ガグモ、  
ヤホシサヤヒメグモ、チリソウグモ、コフタオイソウグモ、ヤリグモ、オナガグモ、  
ヤミイロカサグモ、クスマサラグモ、タマサラグモ、メキリグモ、ゴアシダカグモ、  
ヤミイロカサグモ、ハナグモ、コハナグモ、ウカバグモ、アマギエビスグモ、シャコグモ、  
アサヒエビグモ、ムツバハエトリ、マダラスジハエトリ、アオオビハエトリ、ネコハエトリ、  
デーニツツハエトリ、シラホシコグモ、ゲチャハエトリ、ヒメカラスハエトリ、キレウハエトリ、  
アリグモ、オニグモ、ヤマトオニグモ、イシサワオニグモ、ヤエンオニグモ、ムツボシオニグモ、  
ヤミイロカサグモ、アオオニグモ、カラフトオニグモ、シロスジジョウグモ、  
ヤミイロカサグモ、アオオニグモ、ハツリグモ、ゴミグモ、ヨツデゴミグモ、ジョロウグモ、  
メガネドヨウグモ、アシナガグモ、ヤサガタアシナガグモ、コクサグモ、メガネヤチグモ、  
ヤマヤチグモ、ウスキコモリグモ、キシベコモリグモ、アライトコモリグモ、  
イオウイロハシリグモ、アオグロハシリグモ、アスマキシダグモ、ムネアカフクログモ、  
ネコグモ、

以上70種

昭和62年最後を飾る採集会が10月18日、好天の丹沢大倉でおこなわれました。参加者も二  
桁にのり、揚々とした会になりました。月夜の採集会の際は雨にたられ閉口しましたが、私などは暗ければ暗れたでダレてしまっ  
て、まったくくたくかがないことありません。それはともかくも上天気、黄金のメンバーと又とない組合せであることは、間違いなく毎  
回こうあればわが採集会ゆくとこころまさに敵なしといったところでは、間違いなく毎  
回と言わないで下さい。！)



◀ 「籠君、  
(笹岡さんより)  
いったい誰が  
'39年'  
なんでしょう？

「このままで39年間は問題だね」「問題だ」 え・山田 詩

## <<第16回合同例会報告>>

板倉 泰弘

昨年11月15日、大橋区民会館で開催された第16回合同例会は次の通りでした。

### <出席者>

浅間 茂 (我孫子市)・池田 博明、久保寺 みか (小丘原)・  
板倉 泰弘 (世田谷区)・穂葉 茂代 (二宮町)・井上 房枝 (横浜市)・  
梅林 力 (杉並区)・小澤 實樹 (世田谷区)・小野 展嗣 (川崎市)・  
熊田 憲一 (横浜市)・小峯 光弘 (武蔵野市)・笹岡 文雄 (足立区)・  
佐藤 幸子 (横浜市)・新海 明 (国立市)・高橋 登 (川崎市)・  
高橋 祐子 (小田原市)・谷川 明男 (横浜市)・松本 誠治 (小平市)

(多足・カニムシ 所属出席者)

石井清・桑原 篠原圭三朗・西野 高野光男・萩野 佐藤英文

### <プログラム>

10:00~ 開会  
~11:40 午前中の講演  
~12:00 記念写真撮影  
~13:00 昼食  
~16:10 午後 の講演

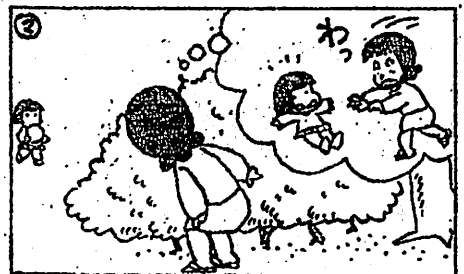
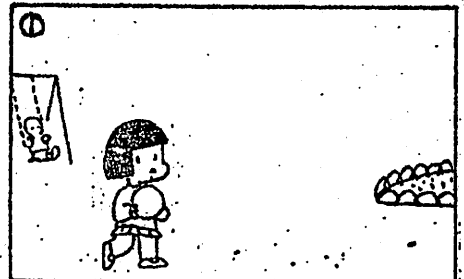
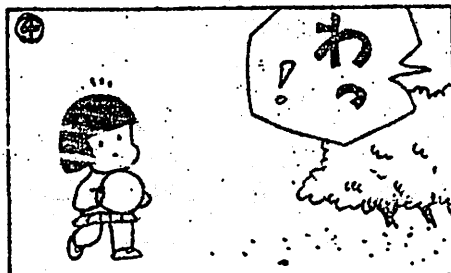
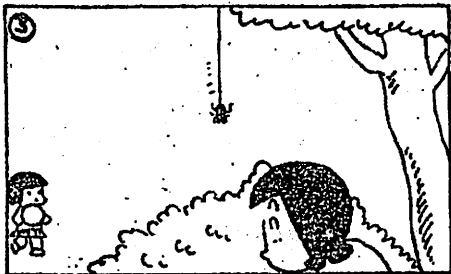
### <講演>

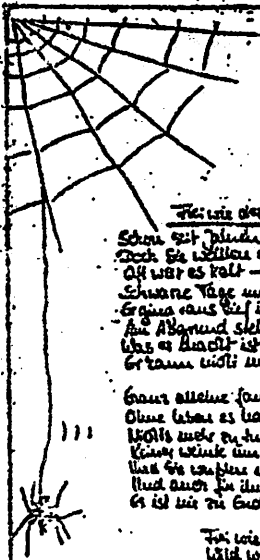
1. 池田 博明・久保寺 みか：キヒメグモの色彩変異  
キヒメグモの腹部の色彩に関して、黄褐色の地に3つの黒点のある明るい色彩のものからキヨヒメグモに似た黒っぽいものまでを6つのランクに分けた。3つの黒点の他に一对の黒点に加わったものと、更にもう一对増えたものも多く見られた。
2. 新海 明：クモの糸に止まる昆虫(双翅類)について  
タマバエやユウレイガガンボ、ガガンボなどの双翅類昆虫にはクモの糸に好んで止まるものが有る。糸は水平で比較的短いもの(15~20 cm)が多いようである。
3. 笹岡 文雄：キシノウエトクテグモの交尾行動の観察報告  
本種の交尾に関するはじめての報告である。雄は触肢でドラムのように地面を打ちながら雌の住居に接近する。雌は住居の蓋を持ち上げて第1、2脚と頭胸部だけを出して体を起こす。雄は触肢で雌を叩きながら雌の下に体を滑り込ませて交尾し、数秒で終了する。
4. 篠原圭三郎：アカズムカデの正体  
トビズムカデ、アカズムカデはそれぞれ別の人物によって記載され、混同されてきたが後者は実際には存在しない種で、採集記録もない。トビズムカデの頭部の色の赤味の濃いものをアカズムカデと呼んで来たようである。
5. 谷川 明男：ヤエヤマサソリ飼育記  
ヤエヤマサソリが単為生殖を行なうことは知られているが、その追認の実験・飼育を行なった。餌条件は悪かったが、それでも雌なして卵を産み、卵がかえって生長した。

6. 板倉 泰弘：アズマキシダグモのギフト  
 ギフトを保持したアズマキシダグモの雄はしおり糸に導かれて雌に接近し、脚を振動させながら交接する。雌雄がほぼ同大なこと、交接後の別れ方、共食いしないこと、ギフトの大きさと交接時間の比例から、ギフトは雄の身の保全でなく、雌を引き付ける手段と考えた。
7. 浅間 茂：千葉県自然環境保全地域（竜福寺・山倉ダム）のクモ相  
 ハンドソーティング、スウィーピング、ビーティングによって調査した。竜福寺では77種のクモが見出され、林内や草原ではコガネグモ科ヒメグモ科、ハエトリグモ科、カニグモ科が、下草ではヒメグモ科、コモリグモ科、フクログモ科、タナグモ科が優占であった。山倉ダムでは99種が採集され、コアカクロミジグモなど5種が千葉県新記録であった。ヒメグモ科、コガネグモ科、コモリグモ科が豊富だった。
8. 松本 誠治：共通種指数の問題点について  
 Jaccardの指数、Sørensenの指数、野村-Simpson指数などの方法があるが、実際に調査地域に生息する種数と採集された種数の差、両地域で採集された種数の差、採集の方法や技術の条件や程度を考慮に入れて用いるが、実用的か。実用的な条件はどうか。

まんまる (4484)  
 団地 杉シテ

「赤旗」  
 (11月10日)  
 より





Wie die der Wind

Schon seit Jahren war es in dieser Stadt  
doch da willens es nicht oder haben nicht geglaubt  
Oh war es kalt - nur einer kam  
Schwarze Tage und er hat es längst gemerkt  
Er ging raus auf ins Theater ohne Angst  
Am Abend stellen - in diese Augen sehen  
Was es Nacht ist Valerian  
Er kann nicht mehr fliehen ----  
Ganz alleine fand man ihn in der Nacht  
Dane haben es hat ihm angeschlossen  
Wohls auch er hat - nichts war vorher  
Keine Wunde um ihn den nächsten Tag  
Und die Wunde selbst er hat sie gemacht  
Und auch für ihn  
Er ist nie zu Ende - Es hört niemals auf

Für wie der Wind  
Wird wie die Sterne  
Er ging raus auf ins Theater  
Er hat gekämpft - dafür bezahlt  
Verloren nicht jemand wie er  
Gibt niemals auf  
Wird niemals alt.

Musik: Jürgen  
Text: Udo Jürgens

# NENA

EISBRECHER  
(アイスブレイカー)

EPIC/SONY INC.

SB・3P-793 5リ

左の挿絵(ゴビ)は

NENA(ネナ)という

西ドイツのロックバンドの  
最近のレコードアルバムの  
あったものです。

この絵、バンド名と  
同名の女性ヴォーカリストNENA

によるものだそうです。歌詞とは関係ない落書きですけど、この穴  
よく描けてますよね。

申し遅れました、私、会員の小池です。皆様お元気ですか？  
私の持っているレコード('87年に発売された)の中に2匹もクモが  
棲んでいるので御紹介させていただいているわけです、ハイ。  
趣味に走っちゃって申し分けありませんが、もう1匹！

こちらはイギリスのロック男性ヴォーカリスト、デヴィット・ボウイの  
最新アルバムのB面1曲目に、棲んで居りました!!

こちらは完璧に歌の題名になってるくらいで、主役  
"一匹"と書きましたバ母子で登場です。

David Bowie

# NEVER LET ME DOWN

(ネバー・レット・ミー・ダウン)

### ◎グラス・スパイダー

わたくし歴史的な、私の家のグレイ・ドゥアングと呼ばれる地方には、まるでガラスで作ったようなクモが生きている。

熱帯を回りつけ、1週間のうちに不気味な狂歌の舞臺を築く習性があった。

そして取られ自身も犠牲のしるしで、ビルディングのフロアのような、いくつもの層から成っていた。

この意味のような建造物の最上層には、明らかに足音が、ガラスやビーズや珠のしずくといった、小さな、耳をもちつと音が反響されていた。それはまさに静寂と呼べるものだった。この建造物を崩壊させれば、それは壊れとすすり返る音を響かせ、それは小さな響き、小さな小さなすすり返り音だった。

クモの子たちはその窟に住み、狂ったように母親を探し求めた。だがグラス・スパイダーの母親は遠くへ去ってしまった。子供たちもやがて目らの方で生きて行くことを彼女が知っていたのだ。ああ、グラス・スパイダーのその日は——それは人間の窟にそっくりな——強い色の窟だった。そしてその窟は及ぼさず消滅していった——蒸てつような世紀の変わり目のために……。

この消え入る叫びが聞こえないのか  
命があなたを包んでいる  
(帰ってきてママ もう水がない)  
穴にいますか誰か あなたは見たはず  
地獄にもほのかかいるのか?  
(帰ってきてママ 暗くなってきたよ)  
気をつけて 気をつけて  
(帰ってきてママ ノドが乾いたよ)  
どこかで彼女は神童に輝いている  
どこかで彼女は一人目覚めてる  
だがあなたは愛しい程で夢見たじゃないか  
ああ もう暗くなってきた

Jah Jah Jah Jah Jah

Jah Jah Jah Jah Jah

水が 水がなくなってきた  
帰ってきてママ もう水がない  
地に伏せろ 突はお前を雷行と恐怖に誘う  
夜霧に現え 影どもが目覚める前に露まれ  
流れ 流れ 我達は夜通し騒いで来た 川はまた  
母の愛がなければ川床は……  
水が 水が流れてしまう  
帰ってきてママ もう水がない

Jah Jah Jah Jah Jah

Jah Jah Jah Jah Jah

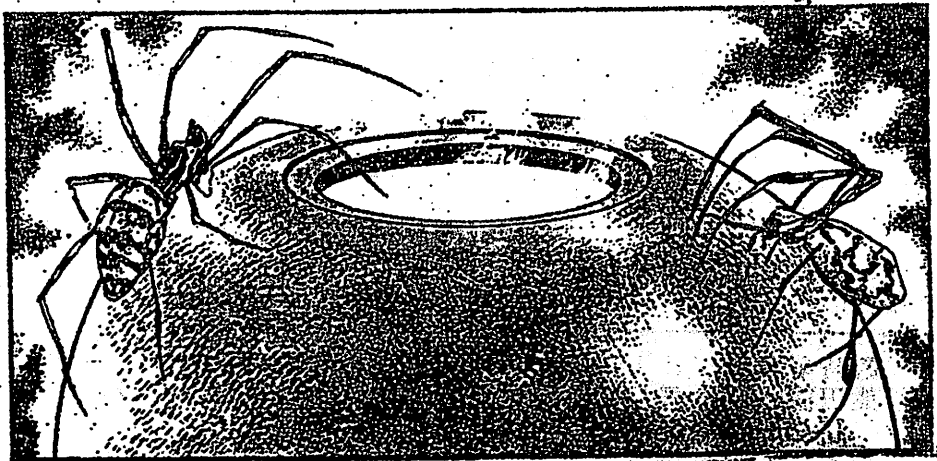
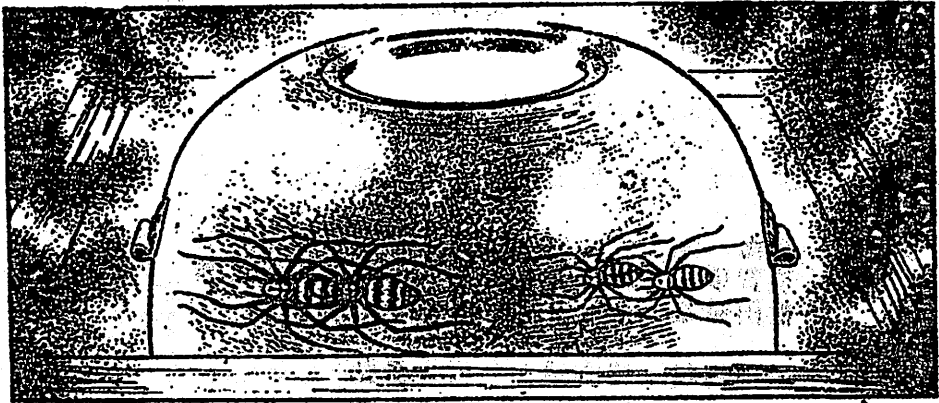
水が 水がない 帰ってきてママ 水がなくなる

東芝EMI株式会社  
( 訳: Kuni Takeuchi )  
よ)

原詞(英語)はコピー

しづかい印刷になっているため  
省略しましたけど、もし興  
味のある方は最寄りのレコード  
ショップで御覧になって  
下さい。

(前ページ同様。  
小池さんより)



▲ 『サンデー』毎日、10月4日号より  
(笹岡さんから頂きました)

<<会費納入状況>>

昭和63年1月30日現在(敬称略)

- ◎60年度 権田重雄
- ◎61年度 林 秀幸、西川喜朗、権田重雄
- ◎62年度 林 秀幸、小野展嗣、権田重雄、須賀瑛文、牧 孝匡
- ◎63年度 新海 明、新海栄一、田中穂積、中井恒夫、松田まゆみ、須賀瑛文、緒方清人、牧 孝匡、笹岡文雄、阿佐見正起、権田重雄
- ◎64年度 田中穂積、緒方清人、板倉泰弘

会員名簿 正誤表 (敬称略)

大野 正男	脚折2	→	脚折町2	
笹岡 文雄	文夫	→	文雄	
浜村 徹三	茶業試験場内	→	野茶試験場内	
佐藤 幸生	273	千葉県船橋市藤原町2-252	吉川荘	0474-30-2305
大和 昌久	236	神奈川県横浜市金沢区富岡東6-30-E-501		
鶴田 明子	250-01	神奈川県小田原市曾比2967-1		
福山 研二	305	茨城県稲敷郡茎崎町松の里	林業試験場保護部昆虫第一研	
権田 重雄	273-01	千葉県鎌ヶ谷市丸山1-17-50		
小野 展嗣	160	東京都新宿区百人町3-23-1		
		国立科学博物館分館 動物研究部	03-364-2311(代)	
高橋 米夫	027-04	岩手県下閉伊郡岩泉町小本字下中野240		
国見 裕久	183	東京都府中市幸町3-5-8	東京農工大学農学部防除生態研	
山本 一博	113	東京都文京区本郷5-5-17	大光ビル506号室	

<<事務局より>>

- ☆<KISHIDAIA>・<つうしん>の原稿を募集中です。
- ☆会費の納入はお早めに。口座番号 東京7-74885

<<臨時事務局/KISHIDAIA編集>>

◎熊田憲一…②221 横浜市神奈川区片倉町199  
☎045(413)3375

<<つうしん編集>>

◎板倉泰弘…①156 世田谷区桜丘3-11-1 山田様方  
☎03(429)2786(呼)

<<談話会つうしん>> No. 61  
1988年2月10日 東京クモ談話会